学校番号	T3003

平成３１年度　工業科（生活デザイン系列）

教科	工業	科目	建築構造	単位数	２	年次	２
使用教科書	建築構造（実教出版）						
副教材等							

１ 担当者からのメッセージ（学習方法等）

この授業では、建築物のあらましを理解し、時代の移り変わりによる構造や材料の変化を学び、地域による構造の分類などを理解し、学習していく。構成方法として、木構造・鉄筋コンクリート構造・鋼構造と大きく三つを学ぶ、建築物の各部の名称・構成・機能、建築物に用いる材料の種類・特徴・性能、部材を組合わせて一つの建築物にする方法、また、建築に関する法規や技術的基準を学び、実際の建築物を通して建築構造について学習する。

２ 学習の到達目標

建築物の材料による分類、つくり方による分類、形による分類に関する基礎的な知識や技術を習得させる。また、建築物に働く力や名称・法規などを学び、構造の意義や役割を理解させるとともに、建築構造における諸問題を主体的かつ合理的に解決し、実際に活用する能力と態度を育てる。

３ 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	建築構造の基礎を意欲的に学ぶ。課題について関心をもち、その改善・向上をめざして主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。	生徒自らが諸課題の解決をめざして思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	建築構造に関する基礎的・基本的な技術を身に付け、環境に配慮し、ものづくりを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	問題意識を持ち、建築構造に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、現代社会における工業の意義や役割を理解している。
評価方法	学習状況の観察 製作品 観察記録表 発表 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 製作品 観察記録表 発表 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 製作品 観察記録表 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 製作品 観察記録表 発表 自己評価・相互評価等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	建築構造のあらまし	建築構造の歴史的発達 建築構造のなりたち 建築構造の分類 建築物に働く力 関連する法規と規準	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a: 建築構造の歴史的発達、分類について関心をもっている。 b: 建築構造の歴史的発達、分類について，判断できる。 c: 建築構造の分類をまとめることができる。 d: 建築物に用いられる技術や法規・規準の概略を理解する。	学習状況 小テスト 定期考査 ノート レポート ワークシート
	木構造	構造の特徴と構造形式 木材、 木材の接合 基礎・軸組・小屋組・床組 階段・開口部 仕上げ 木造枠組壁構法	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	a: 在来軸組構法の知識や技術について関心をもっている。 b: 木構造の構造形式や構成部材を判断できる。 c: 木構造の種類や特徴をまとめることができる。 d:意義や役割を理解している。	学習状況 小テスト 定期考査 ノート レポート ワークシート レポート課題
後期	鉄筋コンクリート構造	構造の特徴と構造形式 鉄筋・コンクリート 基礎・躯体 仕上げ 壁式構造 プレストレストコンクリート構造	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○	a: 鉄筋コンクリート構造の形式ついて関心をもっている、 b: 鉄筋コンクリート構造の形式や構成部材を判断できる。 c: 鉄筋コンクリート構造の種類や特徴をまとめることができる。 d:意義や役割を理解している。	学習状況 小テスト 定期考査 ノート レポート ワークシート レポート課題
	鋼構造	構造の特徴と構造形式 鋼と鋼材・鋼材の接合 基礎・骨組・仕上げ 軽量鋼構造と鋼管構造 鉄骨鉄筋コンクリート構造	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a: 鋼構造の形式や構成部材について関心をもっている、 b: 木構造の構造形式や構成部材を判断できる。 c: 鋼構造の種類や特徴をまとめることができる。 d:意義や役割を理解している。	学習状況 小テスト 定期考査 ノート レポート ワークシート レポート課題

※ 表中の観点について a:関心・意欲・態度 b:思考・判断・表現
c:技能 d:知識・理解

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。◎は、その中でも特に重点的に評価を行う観点である。